

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

平成20年度病害虫発生予察情報 特殊報第3号

平成20年12月19日
岩手県病害虫防除所

トマトすすかび病の発生について

1 発生状況

- (1) 平成20年7月、一関市花泉町の施設栽培トマト(雨よけ普通栽培、品種:桃太郎サニー)でトマト葉かび病に類似する症状が発生した。
- (2) 県農業研究センターで罹病葉を顕微鏡で観察したところ、分生子の特徴からトマトすすかび病(病原名 *Pseudocercospora fuligena*(Roldan)Deighton)と診断された。トマトすすかび病の発生は、これまでに1府19県で確認され特殊報が発表されているが、本県での確認は初めてである。

2 病徴および診断

病徴は葉かび病と酷似しており肉眼での見分けは難しいが(写真1、2)、葉に形成された分生子を顕微鏡下で観察すると淡褐色の細長い糸状(縦径13.3~170.3×横径2.7~5.6μm)であり、容易に葉かび病と区別できる(写真3、4)。



写真1 葉表における病徴
(左:すすかび病 右:葉かび病)



写真2 葉裏における病徴
(左:すすかび病 右:葉かび病)



写真3 トマトすすかび病菌の分生子



写真4 トマト葉かび病菌の分生子

3 病原菌と伝染

- (1) 糸状菌の一種であり不完全菌類に属する。菌糸の発育適温は 26～28 、分生子の形成適温は 18～22 、分生子の発芽適温は 26 付近である。
- (2) 本菌は被害植物の残さで越冬し、翌年の伝染源となる。
- (3) 本病は多湿条件で発生しやすい。また、トマト品種の葉かび病抵抗性と関係なく発病する。

4 防除対策

- (1) 多湿条件で発生しやすいので、密植、過繁茂を避けるとともに、換気による湿度管理に留意する。
- (2) 発病を確認した場合は薬剤防除が必要となる。本病害に適用がある薬剤としては、トリフミン水和剤がある。
- (3) 発病葉及び被害残さは伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

(参考) これまでにトマトすすかび病の特殊報を発表した府県

発表年	府 県 名
平成 8 年	宮崎県
15 年	徳島県、京都府
17 年	愛知県、岐阜県
18 年	茨城県、千葉県、鳥取県、広島県、島根県、岡山県
19 年	高知県、熊本県、鹿児島県、佐賀県、大分県、群馬県、新潟県
20 年	神奈川県、長崎県

【利用上の注意】

この情報は、平成 20 年 12 月 3 日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
農薬は使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。

【情報のお問い合わせは病虫害防除所まで】

TEL 0197(68)4427

FAX 0197(68)4316

この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/agri/>

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう。